

岡山県における弥生時代の墳墓の列石について

氏 平 昭 則

1 はじめに

近藤義郎氏は『前方後円墳の時代』⁽¹⁾で、吉備地域において弥生時代中期後半に集団墓地から特別に区画された一群の埋葬が現れ、さらに後期中～後葉になり盛土をもって墓域を画す弥生墳丘墓が出現、その諸要素が前方後円墳に継承されると説いた。外表施設については、弥生墳丘墓では「墳端に、あるいはそれに近く列石あるいは石垣状の石列を配していることが多く、その配置は「周囲ぐるり」、「一辺あるいは相対する二辺だけ」、「二列（二段）」の場合があるとし、これを「霊域としての墳域を画する役割を持ったもの」と規定した。さらに、列石が「霊域区画＝隔絶の形式的徹底の産物」である古墳の葺石へ転化すると考えた。

その後、記録保存調査などによって墳墓の発掘例は増加したが、岡山県下において弥生時代墳墓の外表施設について注目されることはあまりなかった。そうした中、宇垣匡雅氏は「吉備南部の弥生墳丘墓の斜面施設」⁽²⁾を著した。吉備南部の弥生墳丘墓に共通する要素として、墳丘外表の列石に注目し、斜面施設として墳丘肩部型列石と斜面下方型列石を提示した。弥生時代後期前半は墳丘肩部型列石のみが見られるが、後期後半に弥生墳丘墓の墳丘の大形化に伴って斜面下方型列石が出現する。垂直の石壁となること、石材の置き方が基本縦置き（石材の長軸を垂直方向にするもの）であることは共通で、この地域の墳墓に共通する要素と評価できる、とした。弥生時代墳墓の主要な外表施設として列石を取り上げ、その位置・時期変化とともに吉備南部という地域に限定して共通要素と規定した。

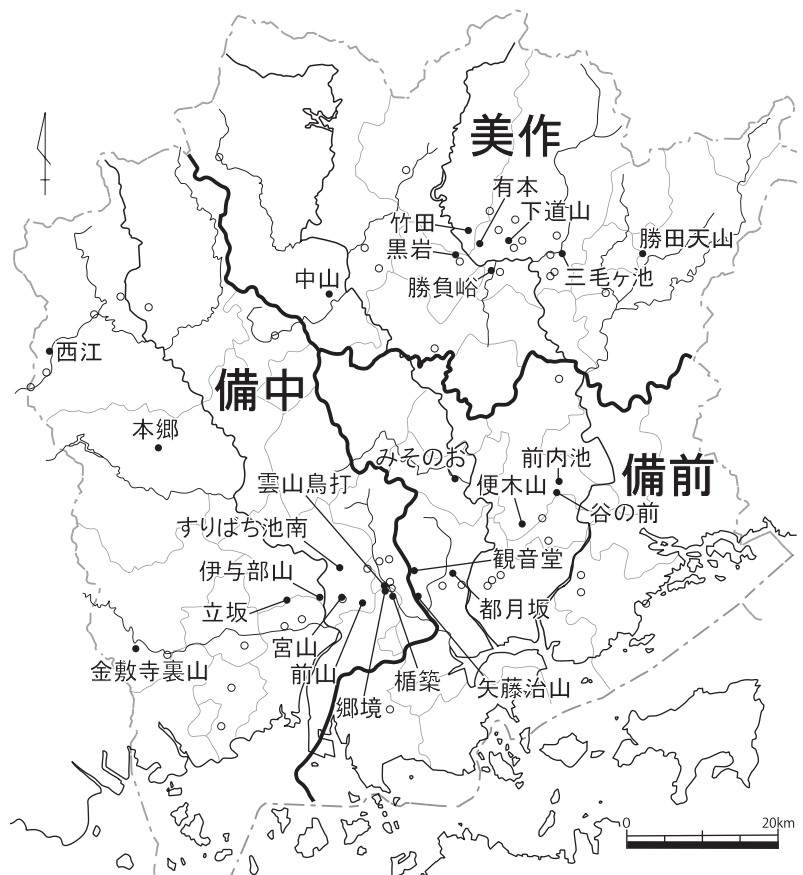
筆者は岡山市北区御津に所在したみそのお遺跡墳墓群の調査に参加し、弥生時

代の墳墓で列石が重要な要素であると確信したが、爾来30年にわたり評価できないまま時を過ごしてしまった。本稿ではみそのお遺跡墳墓群の列石の特徴を各期ごとに抽出、共通点と相違点をまとめる。さらに岡山県内の類例と比較し、列石の変遷を追求したい。

なお、「列石」は主に弥生時代の墳墓に存在し、石材を直線あるいは弧状に配した外表施設である。これまで弥生時代墳墓の報告書や研究上で使用されてきた用語であり、今後の研究の進展で改める必要もあると思われるが、今回は宇垣論文同様この語を使用する。

2 みそのお墳墓群の列石

各期の列石 列石を持つ弥生時代の墳墓遺跡の代表例として、みそのお遺跡⁽³⁾を取り上げる。みそのお遺跡



第1図 岡山県における弥生期中期～後期の墳墓 (○) と列石を持つ墳墓 (●) (1/1,000,000)

の墳墓群（以下、みそのお墳墓群）の特色は、南北に長い尾根上に弥生時代後期初頭から古墳時代前期まで切り合いをほとんど持たずに連綿と墳墓が築造され、弥生墳墓から古墳への変遷が1遺跡で完結していることである。区画墓として39基が認められ、そのうち列石は26基に存在する。報告書のまとめに基づいて表1を、代表的な区画墓の平面と列石を第2図に示した。まず、みそのお墳墓群における列石の実態を、みそのお報告書の編年および津寺遺跡などの土器編年⁽⁴⁾に基づき追っていきたい。

みそのお墳墓群で列石を配する墳墓が出現するのは、弥・後・I期でみそのお2期に当たる18号墳墓からで



写真1 みそのお墳墓群の遠景（北西から）

ある。弥・後・I～II期（みそのお3期）の16号墳墓では、第1～3主体の木棺墓からは遺物が出土せず、墳

表1 みそのお墳墓群の編年

みそのお時期	1期	2期	3期	4期	5期	6a期	6b期	6c期	7期							
土器編年(高橋護氏)	VII-a	VII-b	VII-c	VII-d	VIII-a	VIII-b	VIII-c	VIII-d	IX-a	IX-b	IX-c	X-a	X-b	X-c		
県編年(津寺3など)		弥・後・I		弥・後・II		弥・後・III		弥・後・IV					古・前・I			
墳墓名	6～12号	18号	16・17号	19・21～28号	29～32・47号	20・33～37・4号	40・41(1・2主体)・42号1次	38・39・41(3～9主体)・42号拡張	5・43～46号							
列石の特徴	列石なし	平面は尾根方向に平行・直交して直線、残存状況悪い 立面は地形に沿った形			平面では尾根方向と異なる方向の列石出現 立面は石材間の隙間がなく並ぶ								平面は尾根方向に平行・直交して直線、残存状況悪い			
主体部数	70	27	34	84	121	27	32			20						
棺形状	小口溝あり(側板で小口板を挟む)				小口溝あり(古層)、割竹形木棺(新相、短い)				箱形木棺、割竹形木棺一部残る			箱形木棺(側板で小口板を挟む)			箱形木棺、割竹形木棺(長い)	
棺内付属				赤色顔料(1基)		赤色顔料・枕石								赤色顔料・枕石、棺床・小口に石材		
出土土器(主体部上)	高杯・取手付壺・甕				高杯・鉢		壺・高杯・直口壺		壺・直口壺・甕・器台・高杯・装飾高杯		特殊壺・甕・直口壺・台付直口壺・高杯・器台		壺・高杯		高杯・小形器台	
出土土器(斜面・周溝)		壺・甕・高杯	甕・高杯		甕・器台・装飾高杯・高杯		直口壺・壺・高杯		直口壺・壺・高杯		甕・高杯		直口壺・甕・高杯・器台		壺・甕・高杯・小形埴・手焙形土器	
主体部内出土遺物・副葬品		鉄鏃1(18号20主体)	甕・土器棺(壺・甕・高杯)		土器棺(壺)		管玉1・ガラス小玉1(47号20主体)		鉄鏃1・ヤリガンナ1(35号1主体)		管玉1(42号1主体)、管玉1・鉄剣1・刀子1(42号2主体)		管玉1(38号1主体)、鉄剣1(38号6主体)、鉄鏃2(41号6主体)、鉄鏃1・ヤリガンナ1(42号4主体)、鉄剣1・鉄鏃2・ヤリガンナ1(42号5主体)、鉄鏃1(42号6主体)		管玉2・ガラス小玉3?・鉄斧1(43号1主体)、管玉1・刀子1(44号1主体)、ヤリガンナ1(44号2主体)、鉄斧1・鉄鏃2・刀子1(46号1主体)、ガラス小玉1・刀子1(46号2主体)	
墳墓の特徴	尾根の加工、墳丘の存在	石敷きを上部に伴う主体部	主体部上土器少数、土器棺出現、多数		古相が北側、新相が南側		大形(47号)と小形群、主体部から高杯が中心に出土		新規と尾根上に継続して造営、主体部数減少		主体部上に大量の土器		6a・b期に継続して増築		増改築なし、別地点に移動	

弥・後・Ⅰ～Ⅱ(みそのお3期) 16号

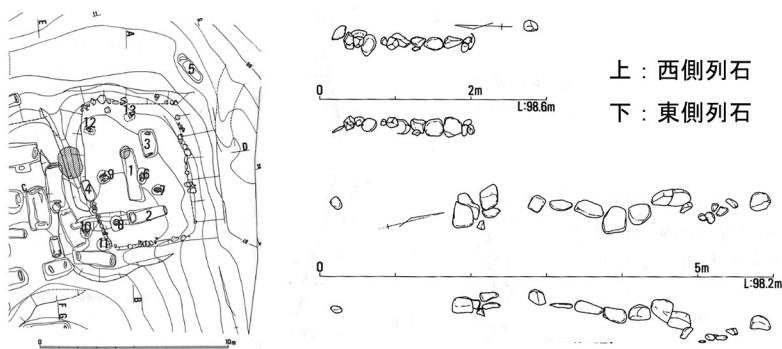
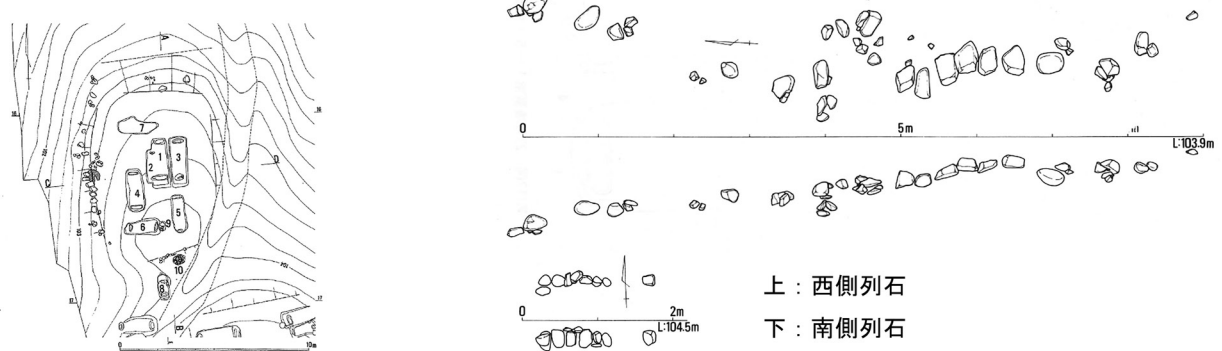
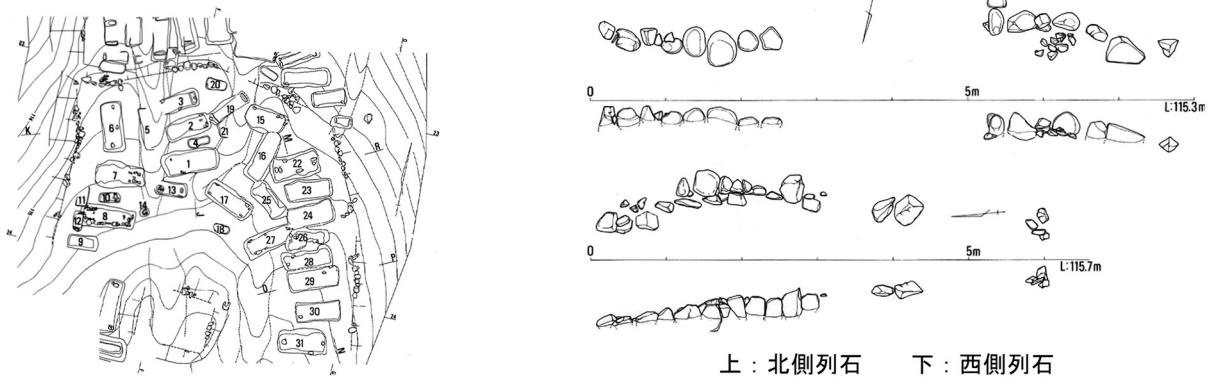


写真2 16号墳墓墳丘(南から)

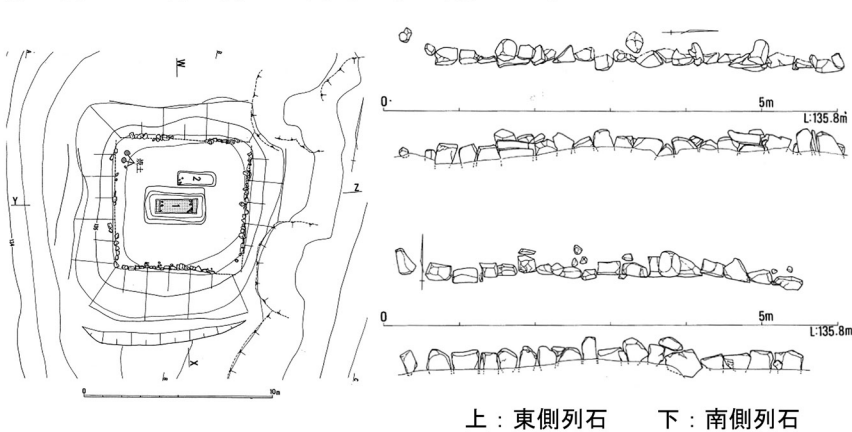
弥・後・Ⅱ～Ⅲ(みそのお4期) 23号



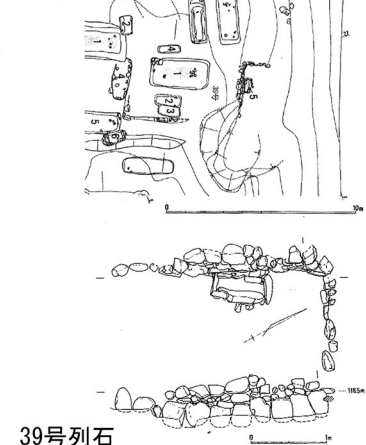
弥・後・Ⅲ(みそのお5期) 32号



弥・後・Ⅳ～古・前・Ⅰ(みそのお6期) 4号



39号



第2図 みそのお墳墓群 時期別代表例(1/400)と列石平・立面(1/100)



写真3 みそのお4号墳墓 墳丘検出状況(南東から)

墓内外に土器棺8基が設けられるという特徴を持つ。列石は第1主体を中心にした長方形の範囲を囲み4周を巡る。東側列石の石材は主に30cm程度の平らな石材を用い、面の広い側が上を向くものが多い。西側は東側より小ぶりの20cm程度の大きさの石材で、面の広い側が墳丘の外側を向くものが多い。東側列石の検出状況は、列石の上部が墳丘外側へ傾いたもので、元来は面の広い側が外側を向き直立していたものと推測される。墳端と列石の比高差は、北側列石底部から墳丘北端までは高さ50cmを測るが、南側列石底部から南周溝底面までは10cm程度と少ない。

弥・後・Ⅱ～Ⅲ期(みそのお4期)の23号墳墓は、列石区画内に木棺墓7基と土器棺1基が配され、南側列石の外側にも木棺墓と土器棺が1基ずつ位置する。列石は山道に切られる東側を除いて3辺で確認された。西側列石の石材は40cm程度の平らな石材を用い、面の広い側が上を向くものが多い。墳丘の傾斜に沿って配置され、南側より北側が低くなる。南側列石は西側より小ぶりの20cm程度の大きさの石材を用い、面の広い側を墳丘外側へ向け直立して配置する。墳端と列石の比高差であるが、北側列石底部から墳丘北端までは高さ60cm、南側列石底部から南側墳端までは50cm程度と同じ程度の落差である。墳頂最高所と北側列石上部の比高差は60cmを測るが、周辺地形の観察から北側列石の上部に盛土がその高さまで存在した可能性は低い。

弥・後・Ⅲ期(みそのお5期)の32号墳墓は、当初の墓域は北側列石近くの木棺墓6基分だったが、南西・東側に4回程度拡張したとされる。北側・西側列石の石材は30～50cm程度の平らな石材を用い、面の広い側が墳

丘外側を向いて直立するものが多い。東側列石は3辺に分かれ、いずれも石材の大きさ・配置は北側などと同じだが、1辺の長さが4mまでで、各辺の列石間には空間があり、平面の最終形は多角形状を呈する。3辺の列石の方向は、それぞれの西側に隣接する木棺墓群の長辺方向と直交するように見える。墳端と列石の比高差であるが、拡張部の東側列石底部から墳丘東端までは60cmで、西側列石底部と墳丘西端では30cmを測る。墳頂最高所と北側列石上部との比高差は40cmを測るが、西側列石とでは比高差はほとんどない。

弥・後・Ⅳ期(みそのお6a期)の4号墳墓は、墓坑が2基しかなく中心埋葬が卓越する。列石各辺の長さがほぼ同じで、囲まれた墳頂平坦面はほぼ正方形を呈する。石材間の抜けがあまりない状態で検出され、残存状況が良好である。列石を構成する石材は30～50cm程度の角礫で、面の広い側が墳丘外側を向く。墳端と列石の比高差であるが、北側列石底部から墳丘北端までは80cmで、南側列石底部と墳丘南端では40cmを測る。墳頂最高所と北・南側列石上部との比高差は10cmで、東・西側列石上部とでは比高差は25cmとなり、列石で囲まれる内側は見た目も平坦である。

みそのお6c期の39号墳墓は37・38号墳墓を南東へ拡張する形で設けられた墓域で、列石は木棺墓群の東側をL字形に区切って作られている。この列石は、最下段に縦長の石材の広い面を墳丘の外側へ向けて直立させ1列に並べ、その上に石材を3段程度小口積みしたものである。この列石の東側には列石に接して長さ約80cmの箱式石棺が配置されるが、他に墓坑は存在しない。

古・前・Ⅰ期に当たるみそのお7期の43～45号墳墓の列石は、6期のものと比べ石材の大きさや並び方が不均等である。残存状況が悪く、墳丘が斜面部に立地するためかもしれない。みそのお8期(古・前・Ⅱ期)の13～15号墳墓では、列石は墳端に並び、傾斜もやや緩やかになる。最下段は大きさが均等なやや大きめの礫の平たい面を外側に向けて積み、その上に最下段より小ぶりの礫を積む6期と似た構築である。14・15号墳墓では墳丘が斜面下方の一部だけ2段築成になり、それに合わせて列石も2段に並ぶ。

列石の特徴 時期別の変化を要約する。弥・後・Ⅱ期までの列石は、平面形では尾根方向に平行・直交して直

表2 岡山県内の列石を有する墳墓一覧

遺跡 番号	墳墓 番号	名 称	所在地	時期	種別	墓坑数	備考
1	1	みそのお5号墳墓	岡山市北区御津高津	弥後Ⅳ	墳丘墓	2	中心埋葬から鉄器3、赤色顔料
1	2	みそのお16号墳墓	岡山市北区御津高津	弥後Ⅰ～Ⅱ	墳丘墓	13	墳丘内木棺墓4基・土器棺8基
1	3	みそのお18号墳墓	岡山市北区御津高津	弥後Ⅰ	墳丘墓	27	列石残存2m 中心部の木棺墓上に集石
1	4	みそのお20号墳墓	岡山市北区御津高津	弥後Ⅳ	墳丘墓	2	墓坑上に壺などからなる土器溜まり
1	5	みそのお23号墳墓	岡山市北区御津高津	弥後Ⅱ～Ⅲ	墳丘墓	9	墳丘内木棺墓7基・土器棺1基
1	6	みそのお24号墳墓	岡山市北区御津高津	弥後Ⅱ～Ⅲ	墳丘墓	10	墳丘斜面などから装飾高杯・直口壺・器台
1	7	みそのお27号墳墓	岡山市北区御津高津	弥後Ⅱ～Ⅲ	墳丘墓	15	列石残存2m 墓坑上から装飾高杯など
1	8	みそのお29号墳墓	岡山市北区御津高津	弥後Ⅲ	墳丘墓	19	列石の石材残存少ない、墳形不明瞭
1	9	みそのお30号墳墓	岡山市北区御津高津	弥後Ⅲ	墳丘墓	12	1つの墓坑を「コ」状に囲む列石がある
1	10	みそのお31号墳墓	岡山市北区御津高津	弥後Ⅲ	墳丘墓	21	南西部へ木棺墓6基分拡張
1	11	みそのお32号墳墓	岡山市北区御津高津	弥後Ⅲ	墳丘墓	14	1回の拡張、後に東拡張部追加
1	12	みそのお32号墳墓東拡張部	岡山市北区御津高津	弥後Ⅲ	墳丘墓	17	3回の拡張、列石もそれぞれに伴う
1	13	みそのお33号墳墓	岡山市北区御津高津		墳丘墓	0	墓坑未検出
1	14	みそのお35号墳墓	岡山市北区御津高津	弥後Ⅳ	墳丘墓	7	南へ1回拡張
1	15	みそのお36号墳墓	岡山市北区御津高津	弥後Ⅳ	墳丘墓	7	南へ1回拡張
1	16	みそのお37号墳墓	岡山市北区御津高津	弥後Ⅳ	墳丘墓	7	墳丘西・南側に周溝
1	17	みそのお38号墳墓	岡山市北区御津高津	弥後Ⅳ～古前Ⅰ	墳丘墓	6	墳丘を東に拡張、40号より新
1	18	みそのお39号墳墓	岡山市北区御津高津	弥後Ⅳ～古前Ⅰ	墳丘墓	5	37号東周溝を埋めて築造
1	19	みそのお40号墳墓	岡山市北区御津高津	弥後Ⅳ～古前Ⅰ	墳丘墓	2	東側墳端不明瞭 墓坑隅に柱穴
1	20	みそのお41号墳墓	岡山市北区御津高津	弥後Ⅳ～古前Ⅰ	墳丘墓	9	40号墳墓と連続するものか
1	21	みそのお42号墳墓	岡山市北区御津高津	弥後Ⅳ～古前Ⅰ	墳丘墓	10	南へ3回拡張
1	22	みそのお43号墳墓	岡山市北区御津高津	古前Ⅰ～Ⅱ	墳丘墓	7	第1主体部から鉄斧1・玉類5
1	23	みそのお44号墳墓	岡山市北区御津高津	古前Ⅰ～Ⅱ	墳丘墓	5	第1主体部から刀子1・管玉1
1	24	みそのお45号墳墓	岡山市北区御津高津	古前Ⅰ～Ⅱ	墳丘墓	3	列石2辺残 土器少量
1	25	みそのお47号墳墓	岡山市北区御津高津	弥後Ⅲ	墳丘墓	38	第12・15・16・22・24・25・36主体部から朱
1	26	みそのお4号墳墓	岡山市北区御津高津	弥後Ⅳ	墳丘墓	2	列石4辺残存状況良好 第1主体赤色顔料
2	27	前内池遺跡シダガ鼻調査区中央区	赤磐市可真下	弥後Ⅰ～Ⅳ	区画墓	85	列石は15m四方を囲むように配列 出入り口あり？ 東辺列石下に柱穴列
3	28	谷の前遺跡墳丘墓	赤磐市可真上	弥後Ⅲ	墳丘墓	6	列石3辺残 土坑墓5・土器棺墓1
4	29	便木山方形台状墓	赤磐市山陽	弥後Ⅳ	墳丘墓	1	列石1辺残 墓坑数は未調査のため不明
5	30	都月坂2号弥生墳丘墓	岡山市北区津島本町	弥後Ⅳ	墳丘墓	12	長辺2辺に最大4～5段の石垣状列石
6	31	観音堂弥生墳丘墓	岡山市北区辛川市場	弥後Ⅳ	墳丘墓	3	列石2段、方形あるいは長方形の墳丘 埋葬3基、うち第一主体から管玉1・鉄剣1
7	32	矢藤治山弥生墳丘墓	岡山市北区東花尻	弥後Ⅳ	墳丘墓	2	突出部前面、くびれ部、円丘部側面に葺石
8	33	雲山鳥打1号弥生墳丘墓	岡山市北区新庄下	弥後Ⅲ	墳丘墓	3	列石は平面図より類推
8	34	雲山鳥打2号弥生墳丘墓	岡山市北区新庄下	弥後Ⅲ	墳丘墓	3	墳端及び墳丘平坦面端に列石あり
9	35	郷境2号墓	岡山市北区津寺	古前Ⅰ	墳丘墓	1	方形、盛土厚0.5m、箱式木棺1、鉄剣出土
10	36	楯築弥生墳丘墓	倉敷市日畑	弥後Ⅲ	墳丘墓	2	南西突出部先端に溝と弧を描く墳端列石 円丘部斜面に列石
11	37	女男岩遺跡	倉敷市庄新町	弥後Ⅳ	無区画墓	4	溝状遺構にL字状列石
12	38	前山遺跡E群区画墓	総社市宿	弥後Ⅲ	墳丘墓	1	周辺出土土器より時期決定
13	39	すりばち池南墳墓群1号墳墓	総社市小寺	弥後Ⅳ	墳丘墓	18	中心主体2.9×2.19m、赤色顔料 第4主体管玉1鉄剣1
14	40	宮山墳墓群墳丘墓	総社市三輪	弥後Ⅳ	墳丘墓	10	後円部状円丘端とくびれ部に「葺石」
15	41	伊与部山弥生墳丘墓	総社市下原	弥後Ⅰ～Ⅳ	墳丘墓	11	東側石垣状列石、南側屈折する2条列石の溝状構造

遺跡番号	墳墓番号	名 称	所在地	時期	種別	墓坑数	備考
16	42	新本立坂弥生墳丘墓	総社市新本	弥後Ⅲ	墳丘墓	12	墳裾の一部に、板上の石を立て並べ、低い部分にはさらに小石を置いた列石
17	43	金数寺裏山遺跡	井原市笹賀町	弥後Ⅲ	墳丘墓	1	列石2段2条 平面図・写真あり
18	44	本郷遺跡	高梁市宇治町本郷	弥後Ⅰ～Ⅳ	墳丘墓		列石1と土器群4か所検出
19	45	西江遺跡2号方形台状墓	新見市哲西町上神代	弥後Ⅲ	墳丘墓	10	列石南北2辺、南側で最大3段を確認
20	46	中山遺跡A調査区第1区画	真庭市西河内	弥後Ⅳ	墳丘墓	24	列石は北・西側に存在 北～西に溝、南に第2区画と共有する溝
20	47	中山遺跡A調査区第2区画	真庭市西河内	弥後Ⅳ	墳丘墓	5	列石は写真より北・南側に存在か 南～東に溝、北に第1区画と共有する溝で構成
20	48	中山遺跡A調査区第3区画	真庭市西河内	弥後Ⅳ	墳丘墓	17	第3・4区画は最終的に石列・溝を有した長方形のマウンドとなった、とされる
20	49	中山遺跡A調査区第4区画	真庭市西河内	弥後Ⅳ	墳丘墓	12	築造順序は南の第4区画から北の第3区画へ3段階が確認
20	50	中山遺跡C調査区集団墓	真庭市西河内	弥後Ⅳ	無区画墓	73	列石は第1グループ1列、第2グループ1列、第4グループ2列あり
21	51	黒岩遺跡方形台状墓1	津山市領家	弥後Ⅲ	墳丘墓	34	溝1～4で区画される
21	52	黒岩遺跡方形台状墓2	津山市領家	弥後Ⅲ	墳丘墓	5	遺物は周溝出土
21	53	黒岩遺跡方形台状墓4	津山市領家	弥後Ⅲ	墳丘墓	1	遺物は周溝出土
22	54	竹田8号弥生墳丘墓	苫田郡鏡野町竹田	弥後Ⅱ	墳丘墓	16	土器棺4基(壺・甕)、高杯・鉢
23	55	有本遺跡B地区区画墓1	津山市下田邑	弥後Ⅲ～Ⅳ	区画墓	29	平坦面列石1辺、溝2方向
24	56	有本遺跡B地区区画墓3	津山市下田邑	弥後Ⅲ～Ⅳ	区画墓	13	土坑墓13基
25	57	勝負峪遺跡土坑墓群	津山市平福	弥中Ⅲ	墳丘墓	20	列石は中Ⅱの段状遺構を切る
26	58	下道山遺跡無区画墓	津山市総社	弥後Ⅰ～Ⅱ	無区画墓	133	無区画墓の方に列石(写真のみ)
27	59	三毛ヶ池1号上層墓	津山市河辺	弥後Ⅰ	墳丘墓	6	墳丘に円礫2列からなる列石
28	60	勝田天山弥生墳丘墓	美作市河内・杉原	弥後Ⅱ	墳丘墓		現状保存のため埋葬主体未調査

線を呈し、立面では地形の傾斜に沿った形で配列される。このことは、墳丘は方形を志向するが築造に伴う原地形の削平は少ないためと考えられる。また、列石の上部が外面に倒れた状態で検出される例や、列石を構成する石材の一部が抜け落ちていると思われる例が多い。これらは、盛土の流出に伴い発生した現象と解釈できる。弥・後・Ⅲ期からでは、平面形では尾根方向に平行・直交して直線を呈するものに加え、尾根方向と異なる方向の列石が確認できる。立面では、石材が外面に広い面を向けて、石材間の隙間もなく並ぶことが多くなる。弥・後・Ⅱ期までの列石と比べ、残存状況が良好で、みそのお32号墳墓のように列石が墓域ごとに配置される例もあることから、地形の改変度と築成の度合いが高まり、墓域を平坦化してその端に列石を設置する段階へ進んだと考えられる。このことから、列石においては弥・後・Ⅱ期と後・Ⅲ期の間に画期を認められよう。

続いては、時期を通して共通する要素について述べてみたい。まず列石の平面位置であるが、列石で囲まれた

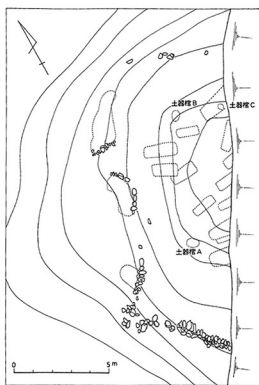
内側は地形の傾斜が比較的緩やかで、外側は斜面あるいは溝で傾斜が急になる。また、内側には墓坑が掘削されることが多い。このことから、列石は墳墓における墳頂平坦面と埋葬領域の端を示すものと解釈できよう。図2の16・23・32・4号墳墓のように、この位置にある列石を「平坦面端列石」と呼ぶことにしたい。また、39号墳墓東側列石のように墳丘の端を表すものもあり、これを「墳端列石」と呼称したい。また、平面での列石の方向は、墓抗の長軸方向と並行・直交する。32号墳墓のように墓域を拡張する場合、その長軸方向に並行・直交する列石が構築される。このことから、列石は1つの墓域ごとに付与されると言えよう。

次に列石を構成する個々の石材に着目する。最下段になる石材は、墳丘外側から見通すと広い面を外側に向け、角度は垂直に近く、石材個々の方向を縦長になるよう設置する。さらに列の上の高さは同じ高さに揃える傾向が見て取れる。

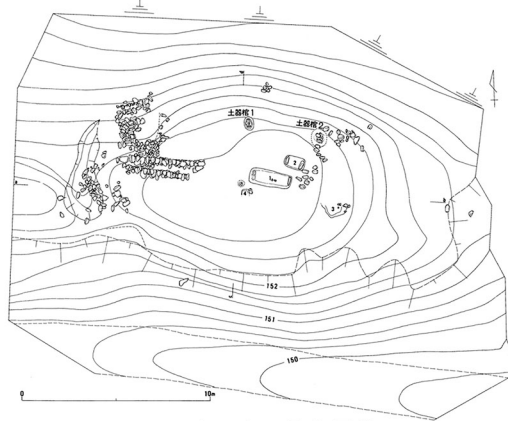
3 その他の弥生時代墳墓の列石

岡山県内では、弥生時代中期から後期末まで約110か所の墳墓遺跡が存在し、区画墓（周溝墓・台状墓）104基、無区画墓61か所を数える。この中で列石が存在する60か所を今回の分析対象とした（表2）。

先に列石の墳丘上の位置を「平坦面端列石」と「墳端列石」に分けたが、平坦面端列石が44例の墳墓で、墳端列石が10例で存在した。そのうちみそのお墳墓群ではほとんどが平坦面端列石なので、これを除いても平坦面端20例、墳端9例である。このことから、平坦面端列石が多数を占めるといえる。



竹田8号弥生墳丘墓



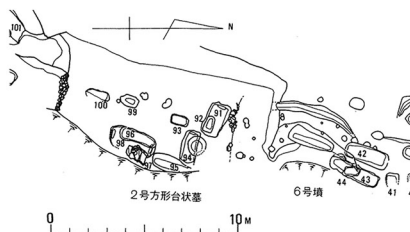
三毛ヶ池1号上層墓



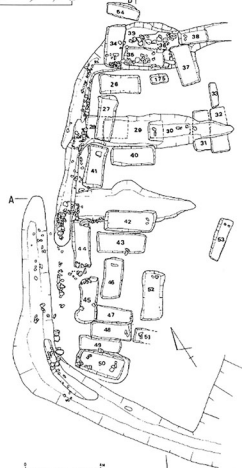
勝田天山弥生墳丘墓



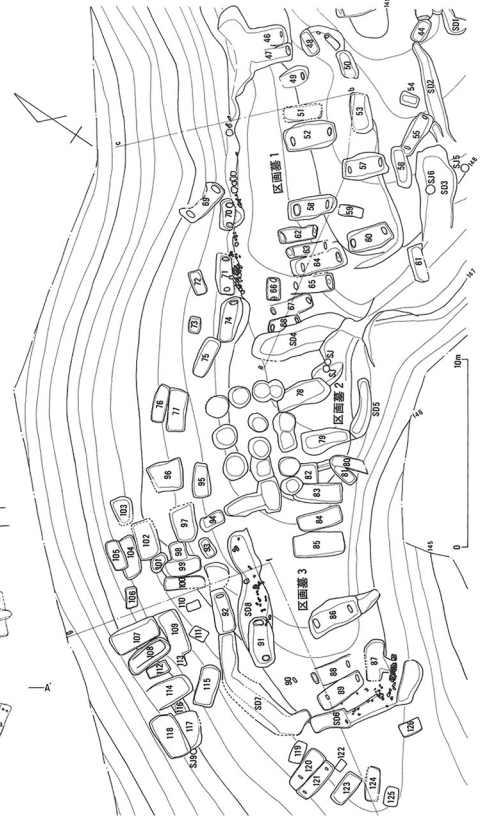
黒岩遺跡



西江遺跡2号方形台状墓



中山遺跡A調査区第3・4区画



有本遺跡B地区

第3図 備中北部・美作地域の列石を持つ墳墓(1/400)

次に岡山県内における列石を持つ墳墓を時期別にみていくことにする。

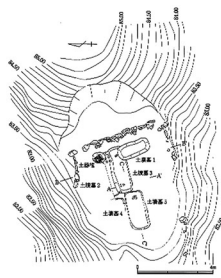
まず列石の始まりであるが、現状では弥生中期末の可能性はある。津山市勝負峠遺跡の木棺墓群⁽⁵⁾に伴う列石は、20~50cm大の角礫が散漫な分布で列をなしているもので、一部に2段以上に見える部分が残っていた。表土を含め周辺に石材が存在したので、複数段だった可能性もある。個々の石材は横長に並ぶものが多く、広い面は上を向いているが、墳丘の流失に伴い倒れたかどう

かは不明である。木棺墓群との位置関係から、墳端列石の可能性が高い。

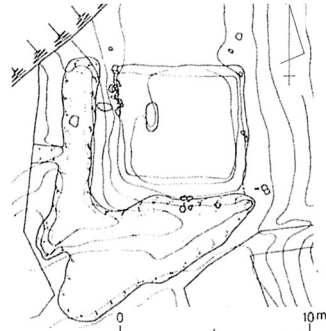
弥・後・Ⅰ~Ⅱ期の時期に入る墳墓は少数で、津山市下道山遺跡集団墓⁽⁶⁾・三毛ヶ池1号上層墓⁽⁷⁾(第3・4図)、鏡野町竹田8号弥生墳丘墓⁽⁸⁾(第3図)、美作市勝田天山弥生墳丘墓⁽⁹⁾(第3・4図)がある。三毛ヶ池1号上層墓は、木棺墓と関連しない場所に円礫を小口積みする列石が2列並ぶほか、貼石も見られるようだ。竹田8号弥生墳丘墓の南側列石は墳端部に位置し、最下



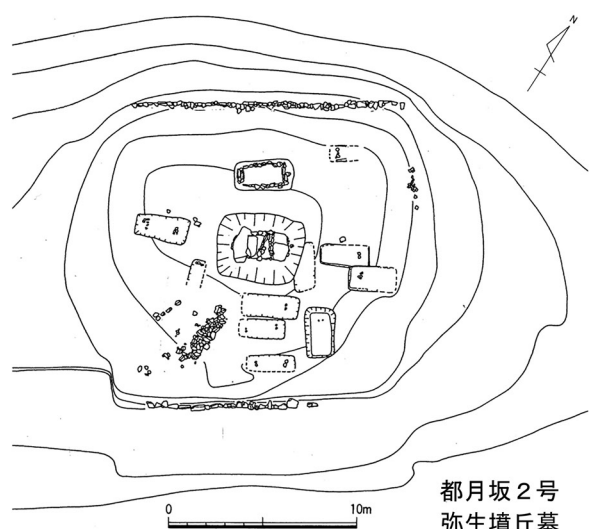
第4図 備中北部・美作地域の墳墓の列石(1/100)



谷の前遺跡墳丘墓



便木山方形台状墓



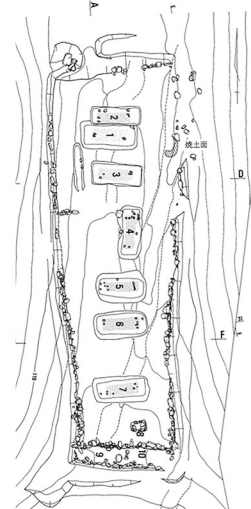
都月坂2号
弥生墳丘墓



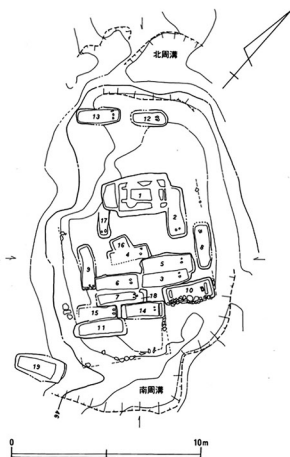
楯築弥生墳丘墓 (1/1,000)



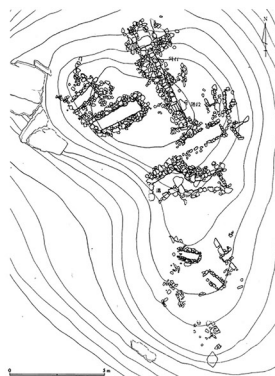
郷境2号墓



みそのお42号墓



すりばち池南1号墳墓



伊与部山弥生墳丘墓



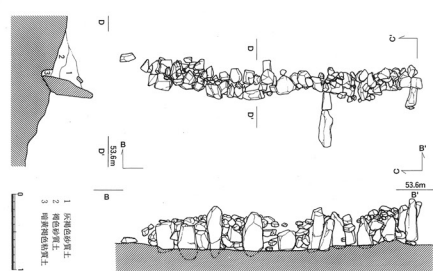
立坂弥生墳丘墓

第5図 備前・備中南部地域の列石を持つ墳墓(楯築以外1/400)

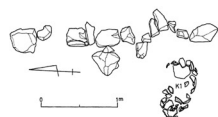
段に円礫の広い面を外側に向けて直立して設置、その上に同じ大きさの円礫を2段程度小口積みしている。勝田天山弥生墳丘墓では、方形の墳丘の4周に列石と転石を確認し、転石が多いもののみそのお例と同様の築造と考えられる。この時期に該当する列石を持つ墳墓は主に美作地域に所在し、列石の位置や積み方、形状もそれぞれ異なっている。備中南部地域でいくつかこの時期に入る可能性がある墳墓が存在するが、列石周辺からの出土遺

物が後・Ⅰ～Ⅱ期以降のものを含むため列石の構築時期を限定できなかった。

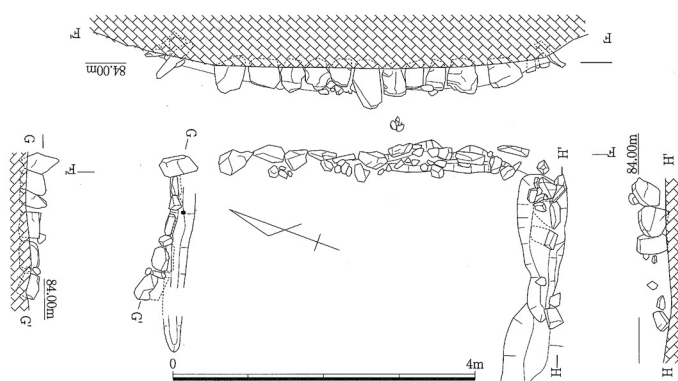
弥・後・Ⅲ期に入ると新見市西江遺跡2号方形台状墓⁽¹⁰⁾(第3・4図)、津山市有本遺跡B地区区画墓1⁽¹¹⁾(第3・4図)、赤磐市谷の前遺跡墳丘墓⁽¹²⁾(第5・6図)、総社市新本立坂弥生墳丘墓⁽¹³⁾(第5・6図)・前山遺跡E群区画墓⁽¹⁴⁾(第6図)、倉敷市楯築弥生墳丘墓⁽¹⁵⁾(第5・6図)、などがある。谷の前・前山区画墓は平坦面



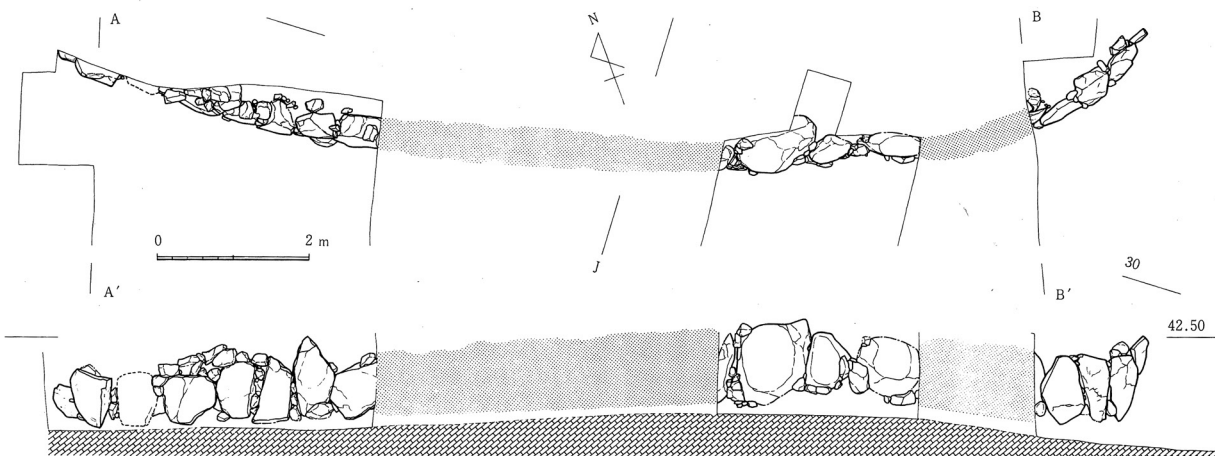
前池内遺跡シダガ鼻調査区



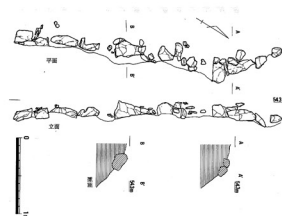
便木山方形台状墓



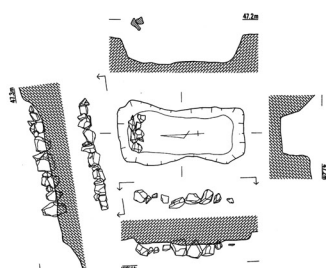
谷の前遺跡墳丘墓



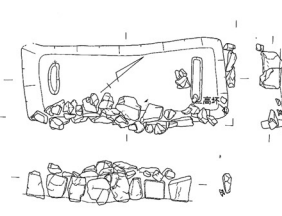
楯築弥生墳丘墓南西突出部先端



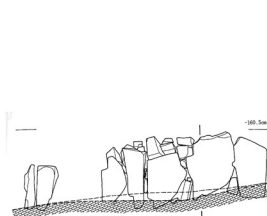
郷境2号墓



前山遺跡E群区画墓



すりばち池南1号墳墓



立坂弥生墳丘墓東墳端

第6図 備前・備中南部地域の墳墓の列石(1/100)

端列石、立坂東墳端・楯築突出部先端は墳端列石の典型例であろう。これらの列石の平面・立面形は、規模の大小の差はあるがみそのお墳墓群の列石と類似している。例外としては西江2号方形台状墓例があり、墳端列石ではあるが角度が斜めになっている。この例については、遺跡の立地から備後地域との関連が考えられる。

弥・後・Ⅳ期は真庭市中山遺跡A調査区第1～4区画⁽¹⁶⁾（第3図）、赤磐市便木山方形台状墓⁽¹⁷⁾（第5・6図）、岡山市都月坂2号弥生墳丘墓⁽¹⁸⁾（第5図）、総社市すりばち池南墳墓群1号墳墓⁽¹⁹⁾（第5・6図）などがある。構造が明確な例が少ないが、この時期も後・Ⅲと同様の構造の列石が作られている。

その後の列石はどのようなものだろうか。岡山市矢藤治山弥生墳丘墓⁽²⁰⁾は、平面が前方後円形の墳墓である。くびれ部で検出したものは墳丘端底部に縦長の石材を1列に並べてその上に3段の石材を積んだもので、みそのお15号墳墓のものと形態が似る。同じく平面前方後円形の総社市宮山墳墓群⁽²¹⁾の墳丘墓は、円礫をくびれ部など墳端付近に配しているが墳端列石に相当するものははっきりしない。これらを見る限り、区画墓と古墳の境界にある墳墓では外表施設に様々な形態が見られる。前期古墳の葺石を精査する必要があるが、少なくとも岡山県内では弥生時代後期の墳端列石が前期古墳の葺石底部に転換した可能性は高いのではないだろうか。

4 まとめ

弥生時代後期の墳墓にみられる列石について、墳頂平坦面と埋葬領域の端を示すものを平坦面端列石、それ以外で墳端に位置するものを墳端列石と大きく2種類に分類して、みそのお墳墓群の変遷から岡山県内の類例を分析した。弥・後・Ⅱ期以前はみそのお16・23号墳墓のような平坦面端列石と竹田8号弥生墳丘墓のような墳端列石の両方が存在し、三毛ヶ池1号上層墓のような列石も見られるなど様々な形態の列石が作られた。弥・後・Ⅲ期の段階で平坦面端列石と墳端列石は墳墓の外表施設として定着、弥・後・Ⅳ期まで継続した状況も確認でき、みそのお墳墓群の変遷がほぼ県内全体に当てはまることが判明した。

これまでの検討から列石の意義について考えたことを述べてみたい。墳頂平坦面や墳端に列石を配するという

ことは、丘陵上の立地と相まって墳墓の範囲を視覚的に一目で認識させることとなった（写真2・3参照）。墳墓は造墓集団の構成員による共同作業の成果であり、造墓集団の紐帯を集団内の構成員はもとより、外部に対してもある程度の期間明示し続ける記念碑としての役割を果たしたと考えられる。列石は単に墳墓を構成する主要な要素であるだけでなく、記念碑という新たな価値の創造に一役買っていたのである。

最後ではあるが、先行研究の指摘について若干の評価をしてみたい。宇垣氏の墳丘肩部型列石と斜面下方型列石についてであるが、当論文の平坦面端列石が墳丘肩部型列石、墳端列石が斜面下方型列石に相当する。平坦面端列石は墳丘平坦面を、墳端列石は墳丘端部をそれぞれ明示するのが目的で構築されたと考え、それについては宇垣氏とほぼ同じ認識であるが、これまで見た例では両者の違いは位置であって時期差とは言いがたい。ともあれ、岡山県内の弥生時代後期の墳墓の共通要素であることは同意見である。

註

- (1) 近藤義郎『前方後円墳の時代』岩波書店 1983
- (2) 宇垣匡雅「吉備南部の弥生墳丘墓の斜面施設」『古代吉備』第25集 2013
- (3) 「みそのお遺跡」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』87 岡山県教育委員会 1993
- (4) 「津寺遺跡3」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』104 岡山県教育委員会 1996
- (5) 岡山県古代吉備文化財センターが一般国道53号（津山南道路）改築に伴い2020年に発掘調査を実施、現在本報告書を作成中である。
- (6) 「下道山遺跡緊急発掘調査概報」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』17 岡山県教育委員会 1977
- (7) 「三毛ヶ池遺跡」『津山市埋蔵文化財発掘調査報告』第48集 津山市教育委員会 1993
- (8) 『竹田墳墓群』鏡野町教育委員会 1984
- (9) 「勝田天弥生山墳丘墓・河内遺跡」『美作市埋蔵文化財発掘調査報告』第5集 美作市教育委員会 2015
- (10) 「中国縦貫自動車道建設に伴う発掘調査10」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』20 岡山県教育委員会 1977
- (11) 「有本遺跡 男戸嶋古墳 上遠戸嶋遺跡」『津山市埋蔵文

- 化財発掘調査報告』第62集 津山市教育委員会 1998
- (12)「土井遺跡 谷の前遺跡 慶運寺跡」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』191 岡山県教育委員会 2005
- (13)『新本立坂』総社市文化振興財団 1996
- (14)「前山遺跡 鎌戸原遺跡」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』115 岡山県教育委員会 1997
- (15)『楯築弥生墳丘墓の研究』楯築刊行会 1992
- (16)『中山遺跡』落合町教育委員会 1978
- (17)「四辻土壙墓遺跡・四辻古墳群 他 方形台状墓発掘調査概報3編」『岡山県宮山陽新住宅市街地開発事業用地内埋蔵文化財発掘調査概報』(3) 山陽団地埋蔵文化財発掘調査団 1973
- (18) 近藤義郎「都月坂二号弥生墳丘墓」『岡山県史』第18巻 考古資料 岡山県 1986
- (19)「すりばち池南墳墓群」『総社市埋蔵文化財調査年報』7 総社市教育委員会 1997
- (20)『矢藤治山弥生墳丘墓』矢藤治山弥生墳丘墓発掘調査団 1995
- (21) 高橋 護 鎌木義昌 近藤義郎「宮山墳墓群」『岡山県史』第18巻考古資料 岡山県 1986